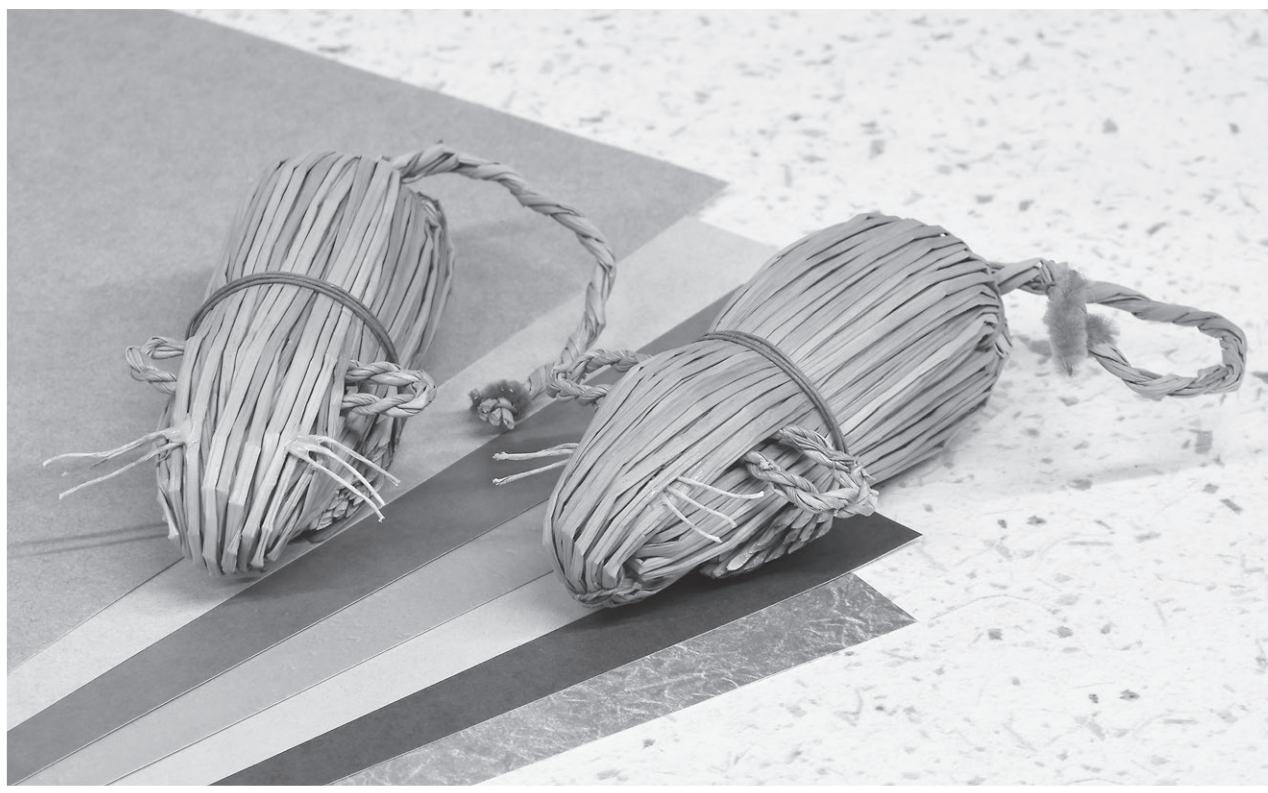


畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村 井 嘉 浩
発 行 所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編 集 発 行 人
高 橋 正
印 刷 所
(株)東北プリント



干支《子》の古代米クラフト（作成：たじり古代稲生産組合）

も く じ

C O N T E N T S

会長年頭挨拶……………2	牛アカバネ病予防接種の実施について……………10
知事年頭挨拶……………3	令和元年度肉用牛研修会開催のお知らせ……………10
「畜産みやぎ」300号の歩み……………4-5	馬事畜産振興の活動報告……………11
CSF 侵入に備えた対策を……………6	令和元年度価格安定対策関連発動状況について……………11
第3回「和牛甲子園」について……………7	〈人の動き〉……………11
優秀農林水産業者の表彰について……………7	賀春……………12
〈畜試便り〉……………8	
〈衛生便り〉……………9	
〈農業大学校生の抱負〉……………9	



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人 宮城県畜産協会
会長 高橋 正

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は「令和」への改元に伴い、10月には即位の礼、11月にはパレードが行われ、日本中が祝賀ムードに包まれ、新時代の幕開けの年となりました。

しかし、昨年10月の台風19号により、本県を含む7県で記録的な防風、大雨に見舞われ、各地で冠水や洪水、土砂災害など甚大な被害となりました。罹災された皆様方にお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を祈念しております。

昨年度、TPP11や日EU・EPAの発効により巨大な自由貿易圏が誕生しました。さらに、日米貿易協定につきましても、1月1日に発効され、我が国の農畜産業は、国際環境において大きく変動していきます。「TPP等関連政策大綱」に基づき畜産クラスター事業の体質強化対策や牛・豚マルキンの経営安定対策など国内対策強化が講じられてはおりますが、担い手対策や生産基盤の強化にも取り組んでいかなければなりません。

一方、2018年の9月に岐阜県で発生した国内で26年ぶりとなるCSF（豚コレラ）は、関東甲信地方まで侵入しており、終息の兆しが見えず、ついに13年

ぶりにワクチン接種に踏み切りました。なお、アジア諸国では有効なワクチンがないASF（アフリカ豚コレラ）が猛威を振るい、国内侵入リスクが高まっていることから、これまで以上に飼養衛生管理の徹底が求められております。

また、和牛遺伝子の中国流失未遂事件をきっかけに国は家畜改良増殖法の改正を検討しており、国内の生産や流通、保有の状況を把握する仕組みの強化を盛り込む見通しとなっております。和牛の知的財産としての価値を日本人自身が認識し、今後このような事件が起きないことを望みます。

本県の肉用牛振興の原動力として長年活躍してきた宮城県基幹種雄牛「茂洋」号は、昨年の9月26日に老衰による心不全で18歳8か月齢の生涯を閉じました。スーパー種雄牛として、仙台牛の生産基盤、ブランド力向上に貢献した功績に、敬意を払いたいと思います。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。昨年のラグビーワールドカップに続き、沢山の方々が世界各国から訪れることでしょう。日本の伝統文化はもちろん、世界に誇る安全で安心な農畜産物を利用した日本食を十分に味わっていただき、その美味しさ、すばらしさを実感していただければ、今後の消費拡大に大いに繋がるものと期待いたします。

本協会といたしましても、国や県が行う畜産関連施策に対し、畜産経営の安定的発展のために関連諸事業を実施して参りますので、関係機関、会員並びに関係各位の更なるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

〈知事年頭挨拶〉



宮城県知事 村井 嘉浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。また、令和元年台風第19号の豪雨により、本県も大きな被害を受けました。お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

去年は平成が幕を閉じ、令和の元号の下、新たな時代がスタートしました。全ての災害公営住宅が完成し、気仙沼大島大橋が開通するなど、東日本大震災からの復旧・復興については、住まいやインフラ面の整備が順調に進捗しています。また、次世代放射光施設の建設に向けた敷地造成の着手や、民営化から4年目を迎えた仙台空港の利用者が過去最高を更新するなど、「創造的な復興」の実現に向けた取組の成果が現れた1年でした。

畜産分野では、9月に本県肉用牛振興の原動力として長年活躍してきた「茂洋」号が、老衰により亡くなりましたが、11月に開催された全国肉用牛枝肉共励会において、(株)川口ファーム(登米市)の出品牛が名誉賞に輝き、史上最高値で競り落とされるという好成績を収めたことにより、仙台牛のブランド認知度を一段と高めることができました。その一方で、平成30年9月に発生したCSF(豚コレラ)は、

関東地域まで拡大し、予断を許さない状態が続いております。

さて、今年は「宮城の将来ビジョン」と「宮城県震災復興計画」の最終年となり、復興の総仕上げと復興期間後の取組を見据えた重要な年となります。「力強くきめ細かな震災復興」、「地域経済の更なる成長」、「安心していきいきと暮らせる宮城の実現」、「美しく安全なまちづくり」を政策推進の基本方向として、復旧・復興の完遂に向けた施策に最優先で取り組むとともに、富県宮城の更なる発展や教育・福祉の充実などに向けた取組を推進するほか、働き方改革や各分野における人材の育成・確保に取り組んでまいります。また、「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げるSDGsの理念は、新時代の羅針盤になると考えられることから、策定を進めている次期総合計画において、この理念を反映させ、本県が抱える諸課題の解決や持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

畜産振興につきましては、まず、CSFの県内発生を防ぐため、農場への衛生管理指導等に努めるとともに、防護柵設置の支援や野生イノシシの検査強化等を実施してまいります。また、日米貿易協定が発効されたことにより、畜産農家を取り巻く環境が大きく変化することが予想されます。国では総合経済対策のなかで、輸出拡大に向け、和牛の生産倍増など一層の肉用牛・酪農の基盤強化を行うこととしました。県といたしましても、政策目標の実現のため、畜産クラスター関連事業の推進や支援など、畜産経営の安定と体質強化に向けた取組を行ってまいります。

震災から間もなく9年が経過いたします。県民の皆様一人一人が「創造的な復興」を実感できるよう、新たな取組にも積極果敢にチャレンジしたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

「畜産みやぎ」300号の歩み

一般社団法人 宮城県畜産協会

「畜産みやぎ」は、皆様のご愛読を頂き今回の発行で記念すべき第300号を迎えました。

畜産専門の広報誌として昭和45年1月20日創刊以来、実に50年の半世紀に亘り継続発行できましたことは、これ偏に関係各位のご支援の賜ものと心から感謝を申し上げます。

創刊号から第200号までの変遷については、平成15年4月に発行した記念号において、既に寄稿済みでございますので、ここではそれ以降について記述させていただきます。

先ずは、表紙を飾る「畜産みやぎ」の題字です。これまで歴代の宮城県知事にご依頼して来た経緯もございましたので、平成20年5月20日発行の第231号より宮城県知事 村井 嘉浩 氏の自筆による題字で現在に至っております。

この間、一番大きな出来事は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災ではないでしょうか。マグニチュード9.0、最大震度7、死亡者15,899名、行方不明者2,529名と過去最大の被害をもたらし、さらに、福島第一原発の放射能汚染事故による被害が、復興を長期化させている最大の要因となってしまいました。

特に、畜産業における被害としては、ライフラインの寸断による水や飼料の供給不足に加え、生乳の廃棄も生じました。また、原発事故関連被害としては、放射能汚染による牧草地等の除染作業、代替飼料の確保、放射能汚染稲わら給与牛の出荷停止措置等が発生し、関係者がこれらの対応に追われました。

この事から平成23年度は、震災関連記事を重点的に掲載し、タイムリーな話題をより早く関係者へ伝える事に努めました。

「畜産みやぎ」は、前述のように時節の話題や特集を迅速かつ的確に読者にお届けする使命を持っておりますが、一方では憩いの場にも配慮しながら「畜試便り」、「衛生便り」、「農業大学校生の抱負」と「新人紹介」などの定番コーナーを設けてきました。

「農業大学校生の抱負」で紹介した方は、以前の「実践大学校生の抱負」コーナーを含めると、平成4年7月の第136号から第300号までで150名の方々を紹介してきました。その多くの方々が、本県の畜産経営者や後継者としてご活躍されています。



(題字 表紙)



(東日本大震災関連支援事業 表紙)

また、「新人紹介」コーナーは平成6年5月より県及び関係団体の職員を対象に、これまで168名の方を顔写真入りで紹介し、自己PRの場として慕われております。本会ホームページに創刊号からバックナンバーを掲載しておりますので、若き日の諸先輩やご自身の写真等をご覧になって見ては如何でしょうか。

最近においては、第11回全国和牛能力共進会宮城大会の開催に合わせて、「全共便り」と称した特設コーナーを設けました。オール宮城として大会の成功と上位入賞を目指すため、宮城県実行委員会や地域の取組み状況を平成27年5月の第272号から14回に亘り連載しました。若雌の部での日本一を含む、団体総合第4位を獲得したのは記憶に新しいところです。

さらに、この宮城全共から新たに「高校復興特別区」が設けられ、本県代表として柴田農林高校が出品したのを機に「県内学校農業クラブの取組み」コーナーを設け、計5校の活動を紹介してきました。

平成30年12月のTPP11発効と同時に、牛及び豚マルキンの法制化を機に、同年11月発行の第293号から「価格安定対策事業の発動状況」のコーナーを新設し、肉用子牛生産者補給金制度と併せて交付金、補填金単価を公表しています。

最後に、本紙は創刊以来、隔月1回(奇数月)年6回発行するにあたり、県並びに関係団体で構成する「畜産みやぎ」編集委員会を前期・後期に各1回の開催をもって掲載内容を協議しております。

県内はもとより、県外の方にも広く配布致しておりますが、2,000部という限られた発行部数により生産者の方々まで十分行き届かず、何かとご不便をお掛けすること多々ございます。現在、みやぎ総合家畜市場の子牛市場開催時の畜産経営相談窓口や凍結精液の供給時にも配布しておりますし、本会ホームページでもご覧いただけますので是非アクセスしてみてください。

皆様方からお寄せ頂いた貴重なご意見ご要望を参考に「タイムリーで、見やすく、読みやすい」広報誌を目指し事務局一丸となって努力いたす所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。編集者の一人として300号記念の寄稿といたします。

(経営支援課長 石川正志)

(12) 平成27年5月20日
畜産みやぎ
(隔月1回発行) 第272号

〈全共便り〉

第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向けて

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会事務局の移転

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会事務局は、これまで県庁畜産課内に設置されていましたが、平成27年4月1日(水)、宮城県農林水産部に「全国和牛能力共進会推進室」、全国農業協同組合連合会宮城県本部内に「全共宮城大会推進室」が組織され、両者が一体となり、さらなる体制強化を図り、準備作業を本格化させるため、事務局を移転しました。

当日は、実行委員会事務局の看板を設置し、実行委員会会長である若生正博副知事から「約40万人の来場を見込む大会運営と、日本一獲得に向け、一致団結して業務に当たって欲しい」と訓示をいただきました。

事務局の移転先については下記のとおりです。

住所 〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町三丁目1-6
宮城県本町第3分庁舎 2階

電話 022-714-2982
FAX 022-714-2985



※なお、駐車場はございませんので公共交通機関を御利用願います。

マスコットキャラクターのデザイン決定と名称募集

県内在住者を対象として、大会のシンボルとなる和牛のマスコットキャラクターのデザイン画を募集したところ、532作品の応募がありました。

幅広い世代の方々で構成するマスコットキャラクター審査会(審査委員長:東北工業大学クリエイティブデザイン学科 藤原 良太 准教授)において入賞候補作品を選定した後、実行委員会の正副会長による最終審査の結果、下記のとおり採用作品を決定しました。



最優秀賞(採用作品:1点)
仙台市 石井 宏紀 さん
(いしい ひろのり)

マスコットキャラクターのデザイン決定に伴い、マスコットキャラクターの名称を下記のとおり募集します。

応募作品の中から、**最優秀賞(採用作品:1点)**には賞金2万円と仙台牛1kgを、さらに、**全応募者の中から抽選で5名の方に仙台牛1kgをそれぞれ贈呈します。**

たくさんのお応募をお待ちしています。

■募集内容
マスコットキャラクターにふさわしく、親しみやすい名称を募集します。

■応募資格
宮城県内にお住まいの方

■募集期間
平成27年5月29日(金)(締切は当日消印有効。持参及び電子メールは当日到着分まで有効。)

■応募方法
(1)郵送、持参、ファクシミリ、電子メールのいずれかの方法で応募してください。

(2)必ず次の事項を明記してください。

- キャラクターの名称、説明
- 郵便番号、住所、氏名(ふりがな) ※、年齢 ※、電話番号、性別、職業 (※は必須)

(3)1人何点でも応募できます。ただし、応募用紙1枚につき1点の作品とし、それぞれ異なる作品に限定します。

(4)応募に関する一切の費用は、応募者の負担となります。

その他、詳細事項については実行委員会ホームページを御覧ください。

■応募先:問合せ先
第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会事務局
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町三丁目1-6
TEL: 022-714-2982 FAX: 022-714-2985
E-mail: miyagi-zenkyouto@pref.miyagi.jp
ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/site/nourinsui-miyagi-zenkyouto.html>
(宮城県農林水産部全国和牛能力共進会推進室 千田春香)

(特設コーナー「全共便り」(第1回)より)

CSF 侵入に備えた対策を

宮城県農政部畜産課

CSF（豚コレラ）は、平成30年9月の岐阜県での発生から、これまで10府県に拡大し、53事例が確認されています。CSFウイルスは豚やイノシシに感染し、紫斑、発熱、結膜炎、後躯麻痺等の症状を呈する疾病です。感染力が強く、発生した場合の養豚業への影響が甚大であることから、特定家畜伝染病に指定されています。CSFが発生した農場では、まん延防止を目的に、飼養豚の全頭殺処分等の防疫措置が行われます。

農林水産省では、これまでCSF対策として、飼養衛生管理基準の遵守徹底を繰り返し注意喚起してきましたが、今般特定家畜伝染病防疫指針を改正し、感染リスクが高い地域をワクチン接種推奨地域として、予防的ワクチン接種を開始しました。さらに、野生イノシシによるCSFウイルスの拡散を防ぐため、重点的にワクチンを散布する防疫帯（ワクチンベルト）構築や、野生イノシシへのワクチンの空中散布等の積極的な対策を新たに開始したところです。

宮城県では、家畜保健衛生所、畜産振興部を通じた農場への注意喚起、農場立入調査を実施し、飼養衛生管理基準の遵守状況の確認、助言、抗体検査、異常豚早期発見及び通報について指導を行ってきました。加えて、農場への野生動物侵入防止対策として、ASF（アフリカ豚コレラ）侵入防止緊急支援事業（（独）農畜産業振興機構）を活用し、農場への防護柵設置の支援を行っています。

一方、発生時に向けた防疫体制整備としては、宮城県特定家畜伝染病対策に係るマニュアル等を整備するとともに、養豚場における農場毎の防疫計画書（殺処分方法、必要人員、資機材の算定、埋却予定地の選定、消毒ポイントの設置場所等）を関係機関と協働し整備を行い、今後本県でCSFが発生した場合にも速やかに対応できるような体制を構築しています。

また、野生イノシシのCSFウイルス感染状況把握のため、平成30年9月から死亡した野生イノシシのCSF検査を実施し、これまでに計20頭の陰性を確認しております。今後、より積極的な検査を行うため、捕獲した野生イノシシのCSF及びASF検査を、関係機関と連携して実施し、CSFウイルスの侵入を速やかに把握できるよう、検査体制を強化していきますので、御協力をお願いします。

県内で豚を飼養している皆様におかれましては、以下の3点に特に注意をお願いいたします。

- ① 野生動物を介したウイルスの衛生管理区域内への侵入防止対策
- ② 毎日の飼養豚の臨床観察を確実に行うこと
- ③ 衛生管理区域に立ち入った人の氏名、住所、所属、車両等の日々の記録の保管

①はCSFウイルスがイノシシ等の野生動物を介して侵入することが危惧されており、特に注意が必要です。すでに、防護柵等で対策をとっている場合にも、野生動物が侵入できる箇所はないかを再確認し、確実に補修しましょう。②は伝染病発生時に被害を最小限に留める上で重要となりますので、毎日確実に実施願います。異常豚を見つけたら獣医師又は家畜保健衛生所に速やかに相談してください。③の記録は、感染ルートの特定に必要となりますので、必ず保管をお願いします。

CSFは豚肉の摂取により人に感染することはありません。また、CSFワクチンを接種した豚の肉を食べても人の健康に影響はありません。正しい情報と知識を持ち、着実に対策を実施していれば、必要以上に恐れることはありませんので、風評被害等に惑わされることなく、毎日の飼養衛生管理に努めましょう。

(衛生安全班 結城瑞希)

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！
配信中の内容：IoT技術の活用／農場HACCP／搾乳ロボット／他

QRコード

スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

がんばる!畜産!3

第3回「和牛甲子園」について

全国農業協同組合連合会宮城県本部

1. 趣旨

全国の農業高等学校で肥育された和牛を対象に、和牛肥育体験発表会（以下、「体験発表会」とする）および和牛枝肉共励会（以下、「枝肉共励会」とする）を開催することで、参加校の生徒に情報交換・交流の場を提供し、肥育技術と生産意欲の向上を図るとともに、わが国の将来の畜産業の後継者・担い手の育成に資することを目的とする。

2. 開催

- (1) 主催：全国農業協同組合連合会（JA全農）
- (2) 後援：農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構（alic）、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、全国高等学校農場協会、公益財団法人全国学校農場協会、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業協同組合中央会（JA全中）、JA全農ミートフーズ株式会社ほか
- (3) 期日：令和2年1月16日(木) 11:00～1月17日(金) 15:00（全2日間）
- (4) 場所：品川グランドホール（THE GRAND HALL）（体験発表会、表彰式等）
〒108-0075 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー 3階
東京都中央卸売市場食肉市場（枝肉共励会、セリ見学等）
〒108-0075 東京都港区港南2-7-19

3. 第3回和牛甲子園褒賞一覧

- (1) 総合優勝 最優秀賞1校、奨励賞 最優秀賞以外
- (2) 体験発表 最優秀賞1校、優秀賞2校、優良賞3校
- (3) 枝肉共励会 最優秀賞1校、優秀賞2校、優良賞3校

4. 参加校と入賞

全国より30校参加44頭出品があり、本県からは宮城県小牛田農林高等学校が参加出品し、体験発表部門にて「優秀賞」に、枝肉も「仙台牛」の高評価を得て3,709円の単価でセリ落とされました。

（畜産部生産販売課長 佐藤 潤）

優秀農林水産業者の表彰について

宮城県農政部畜産課

令和元年11月14日(木)に明治神宮会館において令和元年度（第58回）農林水産祭式典が開催されました。

式典では、江藤拓農林水産大臣をはじめ、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者等約800人が参加し、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の授与が行われました。

本県畜産関係では、次の方々が農林水産大臣賞を受賞され、この式典に招待されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

表彰行事名	品 目	市町村	受賞者
第58回仙台牛枝肉共進会	黒毛和種	石巻市	株式会社川村ファーム
平成30年度宮城県総合畜産共進会	乳 用 種	丸森町	有限会社半澤牧場
平成30年度宮城県総合畜産共進会	肉 用 種	登米市	石川 信喜・敦子
平成30年度宮城県総合畜産共進会	肉 豚	登米市	星 俊之
第21回東北・北海道連合肉用牛枝肉共進会	黒毛和種	登米市	高橋 浩

（生産振興班 山田真未）

〈畜試便り〉

ガス発生剤を用いた簡易的な体外受精卵作出技術

宮城県畜産試験場

生体内卵子吸引 (OPU) 技術の普及によって、現場でも体外受精を実施する機会が増加しています。しかし、受精卵の作出には処理工程が多く、ガス制御されたインキュベーターなどの設備への多額の初期投資が必要となるため、実施する施設が限られています。そこで、移植可能な体外受精卵を現状よりも簡易に作成することを目的として、ガス制御の簡易化について検討しました。

【方法】

体外受精卵の作出には、大きく分けて体外成熟 (IVM)・体外受精 (IVF)・体外発生 (IVC) の3工程があります (図1)。通常、インキュベーターを用いて温度とガス制御を行ないますが、それぞれの行程で細菌培養用のガス発生剤アネロパック (三菱ガス化学) を用いてガス制御の簡易化を行いました (IVM・IVF: アネロパック CO₂、IVC: アネロパック 微好気を使用)。試験区はアネロパック区、温度制御のみの空気区、インキュベーター区 (対照区) の3区とし、実験1はIVM、実験2はIVF、実験3はIVCについて検討し、それ以外の行程は対照区と同様に実施しました。

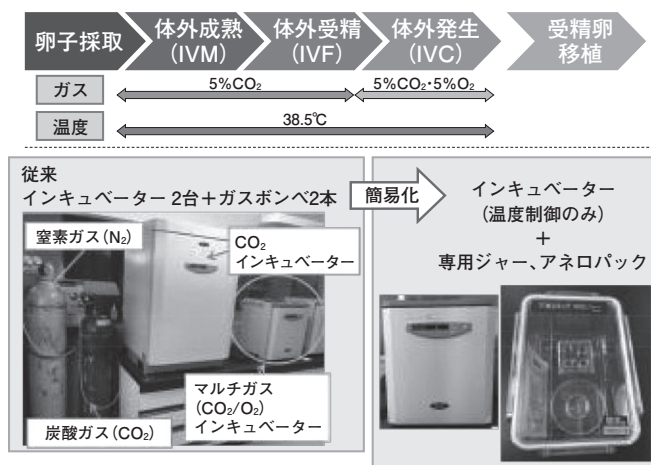


図1. 体外受精の簡易化

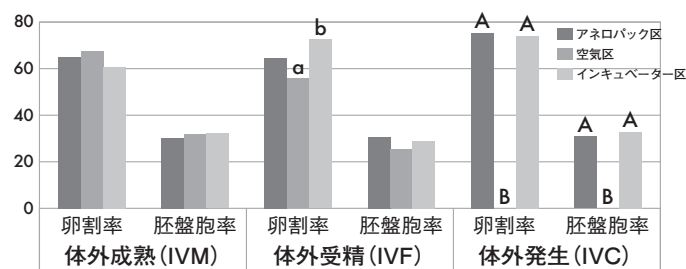
【結果】

実験1 IVMの簡易化では移植可能なステージである胚盤胞の発生率は3区で有意な差はありませんでした。胚盤胞の細胞数は栄養膜細胞 (TE) において空気区が対照区より有意に少ない成績でした。

実験2 IVFの簡易化では空気区は対照区に比べ有意に低い卵割率でしたが胚盤胞率や細胞数に有意な差はありませんでした。

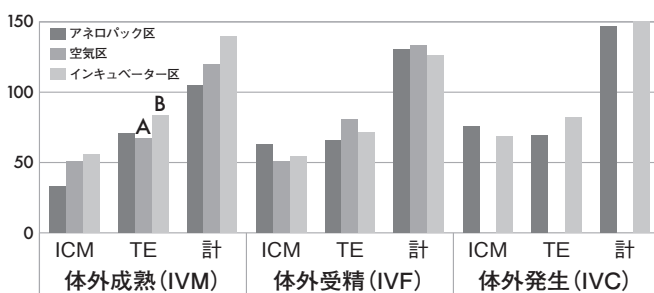
実験3 IVCの簡易化ではアネロパック区と対照区に有意な差はありませんでした。しかし空気区では卵割も胚盤胞の発生も認められず、受精卵を作出できませんでした。

以上のことから、ウシ体外受精において、ガス発生剤を使用して体外受精卵を作出できることが明らかとなりました。この技術を用いることで、従来より簡易的な設備でも体外受精卵の作出が可能になります。



異符号間に有意差あり (A-B: P<0.01, a-b: P<0.05)

図2. 実験1～3 胚発生成績



ICM: 内細胞塊 TE: 栄養膜細胞 異符号間に有意差あり (P<0.01)

図3. 実験1～3 胚盤胞の細胞数

〈衛生便り〉

家畜伝染病発生に備えた 埋却地の確保推進について

宮城県東部家畜保健衛生所

CSF（豚コレラ）などの家畜伝染病が発生した場合、そのまん延防止を図るためには、飼養畜の殺処分や埋却等の防疫措置を迅速に実施する必要があります。このため、飼養衛生管理基準（家畜伝染病予防法）では、生産者による埋却地の確保が義務付けられております。

県ではCSF対策として、関係機関と連携して埋却地の巡回調査を行い、(1)埋却地の確保状況、(2)埋却作業を実施するのに必要な面積、重機等の進入路、作業動線及び掘削可否の確認（下図参照）、(3)未確保農場への対策指導を実施しております。

また、管内は水田地帯のため、候補地としては休耕田や山林などが多く、水源や湧水の問題、林地開発等の関係から、候補地の確保が困難な状況もありますが、市町村とも協力して確保に向けて支援を進めてまいります。

平成22年、宮崎県で口蹄疫が発生した際には埋却地の確保に困難が伴い、まん延防止に大変苦勞されたと聞いております。ASF（アフリカ豚コレラ）等の侵入リスクも懸念される中、今後とも防疫体制の強化を図るため、調査・指導等を継続していきますので、生産者並びに関係者のご協力をよろしくお願いいたします。

〈農業大学校生の抱負〉

農業大学校に入学して

宮城県農業大学校畜産学部

1 学年 渡邊 聖也

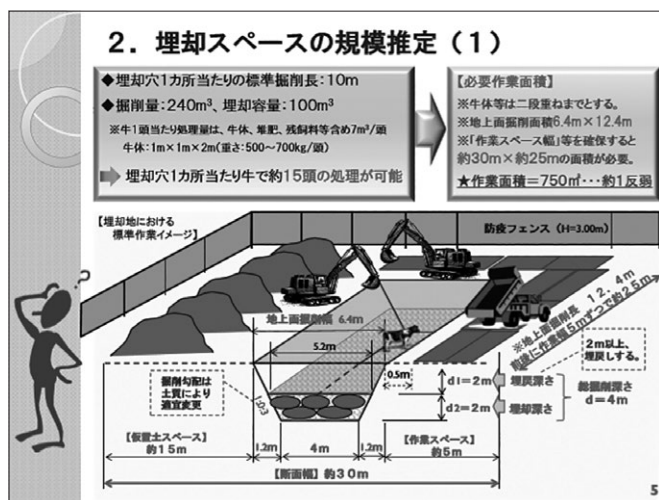


私にとって農業は身近にあるものでした。私の祖父母は和牛の一貫経営と水田で米作りをしています。私自身、幼いころから牛舎の中に入ることや、春休みやゴールデンウィークには米作りを手

伝いに行きました。私が高校2年生の頃に父と母が家の近くの牛舎を借りて、和牛の繁殖経営を始めました。幼いころから牛を見てきたのですが、牛に触れるのは高校生で初めての体験でした。子牛に初めてミルクをあげたときに自分よりも小さい子牛に自分以上の生命力を感じ、私も牛を育ててみたいと思いました。高校3年生になり、進路を決める時に名取市に農業の学校があるというのを知りました。畜産についてまだ半年ほどしか経験がなかった私ですが、牛を育ててみたいという思いから「ここで畜産を学ぼう!」と考え、農業大学校を進路として選択することにしました。

農業大学校では、飼育以外にも飼料栽培やロープワークなど普段では体験できない多くのことが経験できています。普段の講義と実習を通じ、少しずつ自分が成長していることを実感しています。また、先進的な農家さんに33日間お世話になりながら実際の農業現場を体験する先進農業体験学習では、地元の角田市で和牛の繁殖経営を営んでいる鈴木さんのもとで様々なことを教わりました。牛の飼育方法だけでなく、繁殖に関する知識や、除角作業、去勢作業の体験もさせていただきました。先進農業体験学習を通じ、知識と技術の向上だけではなく畜産に対する気持ちも変わったと思います。私が初めて子牛にミルクをあげたときに力強い生命力を感じたように、畜産は他の農業以上に命を強く感じる産業です。それゆえ、品種改良や繁殖、去勢、除角は人間の都合による残酷な行為なのではないかとも感じました。しかし、そのように感じたからこそ、そこに携わる私たちは命を尊重していくべきだと改めて考えさせられました。

私がこの農業大学校に入学して約10ヶ月となります。これまで様々な経験を通じ、成長してきたことを活かし、今後も引き続き学習に取り組んでいきたいと思っています。



図：埋却作業時に必要なスペースの具体例
家畜伝染病発生時の埋却作業マニュアル 平成26年11月 宮城県農政部より抜粋

牛アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人 宮城県畜産協会

4月から6月にかけて牛アカバネ病の予防接種を実施します。
接種希望の方は、市町村、農協、酪農協にお申込みください。

【注射料金】

1頭 2,140円

【牛アカバネ病】

妊娠中の牛が、ウシヌカカ等の吸血昆虫（蚊など）によりウイルス感染し、流産や胎児の奇形を引き起こす病気です。発生してからでは治療がないので、年1回のワクチン接種が最も効果のある予防法です。

牛アカバネ病は平成22年から23年にかけて宮城県内でも流行し、異常産などの被害が確認されました。この病気は、約10年周期で流行がおこるといわれています。予防接種によって被害を防ぎましょう。

【注意点】

分娩前後や体調不良の牛等については、獣医師と相談の上、接種してください。

また、予防接種には飼養者が必ず立ち会ってください。事故防止のために、ご協力をお願いします。立ち会いがいない場合は、接種できないことがあります。

(家畜衛生課)

令和元年度肉用牛研修会開催のお知らせ

一般社団法人 宮城県畜産協会

毎年、NOSAI宮城との共催により開催しています標記研修会を下記のとおり開催する事といたしましたので、近隣生産者等お誘い合わせのうえ経営技術スキルアップのため、是非ご参加ください。

記

◆ 日 時 令和2年2月26日(水) 午後1時～午後3時30分

◆ 場 所 パレットおおさき（大崎生涯学習センター） 多目的ホール

大崎市古川穂波三丁目4番20号 電話 0229-91-8611

駐車場スペースが限られているため、出来るだけ乗合せでの来場にご協力をお願いします。

◆ 講 演 「つなげよう 仙台牛へ バトンタッチ」(第1胃の管理について等)

講師：宮城県農業共済組合 県北家畜診療センター

損防課 課長補佐 高橋 知也 氏

◆ 参集範囲 繁殖牛飼養農家、畜産関係者

◆ お問合せ先

(一社)宮城県畜産協会本所 TEL: 022-298-8473

〃 仙南事業所 TEL: 0224-52-2523

〃 中央事業所 TEL: 0229-34-3304

NOSAI宮城 家畜部家畜課 TEL: 022-225-6781



(経営支援課)

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、地方競馬並びに畜産・畜産物に対する認識を深めるため、下記のとおり普及・啓発活動を行いました。

●「岩手競馬ファン感謝デー・畜産フェア」

令和元年8月25日(日) 岩手競馬組合水沢競馬場において、宮城・青森・岩手・秋田との4県合同による「岩手競馬ファン感謝デー・畜産フェア」を開催しました。

当日は、開門と同時に各県畜産加工品の引換券を正門及び南門にて、先着1,000名様に配布し、11時から17時まで随時引換えを行いました。(宮城200名：ミートローフ、青森200名：豚ロース胡麻味噌焼き、岩手400名：ウイナーセット、秋田200名：比内地鶏カレー)

競馬を楽しんだあとの畜産加工品のプレゼントに来場者は大変よろこんでいました。



●「馬事畜産振興現地検討会」

令和元年12月17日(火) 岩手競馬組合水沢競馬場において、現地検討会を開催しました。

年末の開催にも拘らず参加いただいた12名の方からは、「施設が思っていたよりきれいだった」、「競馬場の広さに驚いた」等の声をいただき、有意義な検討会となりました。



(事務局 一般社団法人宮城県畜産協会)

令和元年度価格安定対策関連発動状況について

一般社団法人 宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）交付金単価

(単位：円)

販 売 月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
10月（概算払）	－	11,271.2	44,722.4
11月（概算払）	－	－	49,726.4

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）交付金単価

第1～3四半期（4月～12月）（概算払） 交付金なし

〈人の動き〉

宮城県農業共済組合（NOSAI 宮城）

退職（令和元年12月31日付）

中央家畜診療センター診療課長補佐

金澤 朋美

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当：審査部登録課 電話03-3583-2142)

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	高橋 正
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	大友 良彦
宮城県農業共済組合長理事	佐藤 敬
みやぎ農業振興公社理事長	寺田 守彦
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊藤 一成
宮城県家畜商協同組合理事長	渡邊 通
全国和牛登録協会宮城県支部長	高橋 修
宮城県ホルスタイン協会会長	渡辺 博
宮城県ホルスタイン改良同志会長	半澤 善幸
宮城県家畜人工授精師協会会長	菅原 三郎
宮城県畜産協会会長	高橋 正

